

ジンバブエ無償資金協力「南北回廊北部区間道路改修計画」完成式

5月5日、西マシヨナランド州フルングウェ郡マロンゴラにおいて、ジンバブエ無償資金協力「南北回廊北部区間道路改修計画」の完成式が実施されました。日本大使館から田中大使が出席したほか、ムナンガグワ大統領、チウエンガ副大統領、モーナ運輸・インフラ開発大臣などの多数のジンバブエ政府関係者、工事関係者、地元関係者など300人以上が参加し、式は盛大に行われました。

今回の道路改修事業は、ハラレとザンビアの国境を結ぶ幹線道路（南北回廊）のうち山岳地帯6.5kmを対象に2019年7月に工事着手され、新型コロナウイルス感染拡大など様々な困難があった中、工事は無事完了しました。改良された道路により、本区間において多発していた事故が大幅に減り、円滑な車両通行が実現することとなり、南部アフリカ開発共同体（SADC）など周辺諸国を含めた物流促進に大きく貢献します。また、本工事では環境への影響に配慮した施工方法が採用されるなど日本の優れた技術を活用しており、本工事に携わったジンバブエ人技術者の技術力向上にも貢献しました。

田中大使は、式典のスピーチで、道路工事関係者に対して感謝の意を示すとともに、本事業によりジンバブエと周辺諸国とのつながりが強化され、当国が目指す「Vision 2030」に基づいた持続的な経済成長及び社会経済への変革に大きく貢献することが期待されると述べました。また、ジンバブエ政府から強い要請のあった追加区間の実施について、協力準備調査開始を決定したと伝えました。

ムナンガグワ大統領は、2019年8月にTICAD7出席のため日本を訪問した際に追加区間の支援検討を依頼し、今回田中大使から回答が得られたことを嬉しく思うとともに、日本の国民と政府に、深く感謝すると述べました。また、このように優れた道路改修を国内全域に広げ、物流促進を図り経済発展につなげたいと述べました。



ムナンガグワ大統領、田中大使ほかによる道路開通テープカット



田中大使のスピーチ



道路工事中の状況



完成した道路